

女子栄養大栄養 松本仲子

目的 狩野文庫架蔵の「南蛮料理書」は、カステラ、コンヘイトウ、てんぷら、たまごとうふなど、南蛮の菓子や料理が記載された写本である。本書の成立年代は記載の料理、菓子から寛文-享保あるいは書体から幕末かとする説もあるが、明らかでない。本報はいくつかの面からその成立年代について検討を加えることを目的としたものである。

方法 記載品目を分類したうえで、各品目の記載理由、初出年代、調理手法、日葡辞書収載語彙との関連等の面から成立年代を検討した。参考とした資料はフロイス「日本史」、ヴァリニャーノ「日本諸事要録」、茶書類、日葡辞書等である。

結果 記載品目は南蛮の料理、菓子のほか和風の料理、菓子がみられ、和風菓子の一部は数寄屋菓子であった。これらの品目が記載された理由は、南蛮料理、菓子は修院での接待に供するため、数寄屋菓子以外の料理、菓子は当時教会、修院などに居住していた同宿や神学生など日本人の日常あるいは祝日の食事作りのため、数寄屋菓子は教会に設えられた茶室で供するためのものではないかと推察された。またこれら数寄屋菓子の多くは他文献に既出のものであった。日葡辞書収載語彙との関連については、同書に「下の地区では卵をたまごと称する」とあることから、たまごの語は1600年以降の初出であるとされてきたこれまでの説は否定されるものと考えられた。以上の諸点等を根拠として、同書の成立は1610年代以前ではないかと推論された。なお南蛮の料理、菓子のほか、和風の料理、菓子が記載されていることは、「南蛮料理書」とある題簽についても今後検討の余地があるものと考えられた。